

(様式) 府立松原高等学校 「学校協議会」 報告書 (第2回)

日 時	平成28年11月19日 (土) 9:00~11:30			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	社会福祉法人 バオバブ福祉会理事	中須賀 久 尚	教頭
	菊 地 栄 治	早稲田大学教授	麦 田 伸 一	首席
	片 山 和 子	本校PTA会長	伊 藤 あ ゆ	首席
			山 口 裕 子	人権教育主担
			木 村 悠	人権教育主担
	教職員等			
	易 寿也 (大阪芸術大学) 田口 裕美子 (事務長) 深井 恵介・宮崎 舞・亀田 恵美・山田 憲一・林 知彦・岩尾 勝 園田 愛理・島田 隼人・佐藤 智美・中川 泰輔・浜崎 眞吉			
おもな テーマ	1) 各学年からの中間報告 2) 学校方針の進捗状況 3) 協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	○中間報告 各学年の成果と課題 3年 進路状況等 (中川教諭) 18歳選挙権のホームルームについて。人権・総合学習と集団育成の中で身に付けてきた、社会に何が足りていないかを生徒自身が考えた。 2年 海外研修旅行ふりかえり (清水教諭・亀田教諭) 現地の高校で67名の有志がソーラン節を披露。一生懸命話す様子と熱心に聴く様子が印象的であった。アンケートの結果もたいへん良好であった。 1年 43期の状況 (深井教諭・木村教諭) 「産業社会と人間」や「人権の集い」などを通して自分をどう表現していくかということを考えさせていきたい。また、学力保障の質を高めていきたい。 ○学校方針の進捗状況「中高連携プロジェクト」(伊藤首席・山口教諭) 10月21日に松高Meetingを開催し、松原市内の7中学校の先生方にお越しいただいた。 ○協議委員からのご意見、提言			
提言内 容・改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を通して中高の教職員がつながるのが松高らしいやり方。松原高校が大学を選ぶ時代。測定されたことに安心を求めがちだが、松原高校はどんな時代、どんな状況でも他の人と何とか生きていける力をつけるはず。「めざす社会像」からカリキュラムマネジメントを考えてもいい。 ・地域に根ざしたことの良さを数値化できる。中途退学率の低さ=面倒見の良い学校。自立とは依拠する場所をどれだけ増やしてきたか。例えば、卒業生の姿。自立支援コース生が、どういったつながりで生きてきたかを見れば分かる。 ・「隠れた低学力」の子どもに、数学が好きだといわせる授業を。 ・子どもを松高に生かして良かった。これを周りの保護者にもたくさん知ってほしい。文化祭などの学校行事では皆でやっている感じが伝わってきた。他の学校にはあまりない光景だと思うので、大切にしてほしい。 ・考えれば考えるほど人間は謙虚になる。人に揉まれる中で自己は生きてくるので、人と人とのつながりを大切にすべきだし、それができる子はいつまでも光る。そういった実践を積み重ねて。 			